

ももさと 通信

2023年
8月1日
第8号

〈発行〉社会福祉法人桃郷 〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3 TEL0736-66-8851 FAX0736-67-8851



すべての子どもに豊かな育ちを

URL <https://www.momosato.com>
E-mail mososato@galaxy.ocn.ne.jp

法人設立30周年記念式典開催



法人設立30周年記念式典への思い

常務理事 舩木 栄子

6月18日、日曜日、快晴、午前9時30分から始まった社会福祉法人桃郷設立30周年記念式典、会場の都合で1部と2部に分けての挙行：

1部では法人2階多目的ホールでの挙行でしたが、ご列席いただいた方々で会場は喜びの雰囲気になりました。ひまわり園の立ち上げから手を取り合って苦楽を共にした仲間たち、「障害児に療育という名の保育の場を」「子どもたちの豊かな発達保障を」と一途に願って共に歩み続けて下さっている仲間たちの30年の集いですから、40分の式典は「アツ」という間の時間でした。

2部は隣の建物、ひまわり園ホールでした。2部の式典として、保護者の方々のリレートークを、短い時間でしたが沢山の事を語り合いました。そして、まだまだ沢山の生活のしづらさを抱える障害児者の問題を私たちに投げかけてくれました。また、保護者の方々は分かり合える友ができ、未永いお付き合いを楽しんでいる。そして、福祉の場での貢献活動を我が子とともに楽しんでいる様子もうかがうことができ感無量となりました。

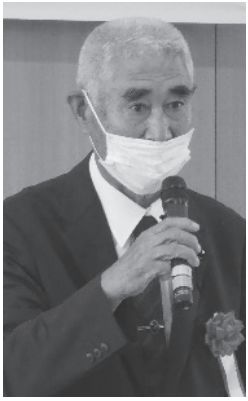
30年間違っていない療育施設のあり方に自信を持ち、私自身もこれからの生きる喜びにしていきたいと念じたものです。

式典の締めくくりとして、永年職員への感謝状、雇用の違いがあっても、ひとり一人の園児を思う気持ちには変わりなく、無事にここまで来られたのも職員の皆様のたゆまぬ努力と研鑽のおかげです。福祉の職場はいつの世も厳しく、特に療育という保育の場では、子ども、保護者、そして私たち職員が共に育ちの場として求められるものがあります。これからもお互いを高めあっていたり、ささやかな式典と思いましたがなんと内容の豊かだったこと、今後への夢を馳せるものでした。ひまわり園は、法人としての最初の施設です。園舎建設竣工式や第1期入園式の思い出を浮かべながら時を過ごせたことは至福の限りでした。また、3年前からの疫病による社会生活への規制もあり、30年の記念式典は出来ない覚悟もしていましたが、内容の濃い式典になりました。今後また区切りの時の式典もこんな膨らみのある、みんなの夢が開けるみんなの式典となることを願ってやみません。至福の財産ありがとうございます。

次のステージに向けて 法人設立30周年記念式典を開催

社会福祉法人桃郷は法人設立30周年を記念し、さる6月18日(日)に記念式典を開催しました。全体の司会は理事の藤本綾子様が務めてくださり、第一部を法人2階多目的ホールで、第二部を児童発達支援センター「ひまわり園」ホールに分け、約100名の参加者を得て、この30年を振り返るとともに次のステージに向かい新たな歩みを誓い合いました。

6月2日の集中豪雨災害で、予定していた会場が使えなくなり、開催場所の変更もありましたが、ご参加いただいた皆様方のご協力もあり、無事終え



来賓あいさつ
(高田県議会議員様)



来賓あいさつ
(那賀振興局長様)



感謝状の贈呈 (代表 片山高一様)



感謝状の贈呈 (藪野寛様)

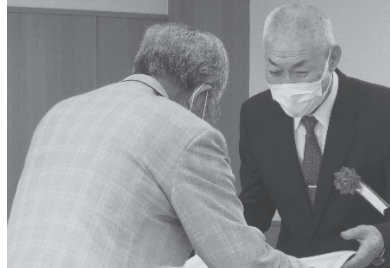


感謝状の贈呈 (代表 峰田朋子様)



感謝状の贈呈 (重里敏子様)

第2部は会場をひまわり園ホールに移動し、船木常務理事がコーディネーターとなり、子どもたちの成長のライドをバックに、ひまわり園卒園児及び在園時保護者によるリレートークを行いました。リレートークにご参加いただいたのは、



感謝状の贈呈 (中西靖治様)

ることができました。第一部では、理事長挨拶の後、和歌山県那賀振興局長阪口公章様及び和歌山県議会議員高田英亮様からご祝辞をいただき、法人功労者として次の11名の方々に感謝状を贈呈させていただきました。

感謝状受贈者

- 藪野寛様 (元ひまわり園後援会会長)
- 重里敏子様 (元ひまわり園嘱託医)
- 中西靖治様 (理学療法士)
- 片山高一様 (ひまわり園ボランティア)
- 橋本義彰様 (ひまわり園ボランティア)
- 山名和章様 (ひまわり園ボランティア)
- 松山義弘様 (ひまわり園ボランティア)
- 峰田朋子様 (評議員)
- 千田弘様 (監事)
- 田中秀樹様 (理事)
- 藤本綾子様 (理事)

岩中紀詩子様

(1997年卒園児)

孝道君のお母さん

岡畑之江様

(2002年卒園児)

勇輝君のお母さん

段子和己様

(2003年卒園児)

陽平君のお父さん

赤井美佐子様

(2004年卒園児)

志帆さんのお母さん

東留美子様

(2014年卒園児)

隼杜君のお母さん

吉田ふみ様

(在園児・真悟君のお母さん)

の6名の皆さん。



リレートーク①

開所と同時に入園、3年後の入園、5年後の入園、7年後の入園と、時を刻んで6人の保護者の方々のリレートークを持ちました。6名の保護者の皆様からは、ひまわり園での思い出、親としての深い悩みと不安や希望、ひまわり園での保護者同士のつながり、そ



リレートーク②

のつながりが今も続いていること、普通でありのままの保育をしたひまわり園や保育士への感謝などお話をしていたいただきました。保護者の方々のお話を涙を流し聞き入るご来賓や職員も多かったです。
6名の保護者の皆様方、お忙しい中、式典日以外の打合せを含め、何かとご協力いただき、また深みのある式典にしていたいただいたことに感謝申し上げます。



表彰状の贈呈 (職員代表 榎本英美)

リレートークの後、永年勤続の職員に感謝状と表彰金を贈呈し、閉会の挨拶で、船木常務から、「ご来賓、感謝状を受けていただいた皆様、リレートークにご参加いただいた6人の保護者の方々への感謝を申し上げます。今から29年前の1994年3月23日、このひまわり園園庭で竣工式を挙行了したことを思い出しています。」



リレートーク③



閉会の挨拶 (船木常務理事)

150人以上のご列席をいただき、桃山町役場、老人クラブやボランティアの方々への応援をいただきました。その時も、無認可施設ひまわり園の保護者の方々のトークで式典は始まりました。来賓としてご参加いただいた方からは、ここは和歌山の大きな財産になるでしょうと言って喜びを分かち合ってくれたことを思い出します。ひまわり園の建物・園庭は、今喜びで満ちあふれているように思います。今日の式

職員被表彰者 (30名：敬称略)

(20年勤続)

榎本英美、山田理恵、平原さとみ

(10年勤続)

明坂拓哉、飯野恵理子、池田しのぶ
石田佐和美、浦部祐子、大城祥男
大原順子、岡珠巳、笠井衣里
北川知津代、木原真由美、木村よう子
澁川亜弓、鈴木智寸子、高橋真伊
竹下恵美子、中井友美、増野真理
宮井瞳、宮原貴代、森本加代
保本紋子、山田詩子、山田直美
山本翔太、山本実都世、吉田朱美



リレートーク④

典は桃郷のこれからのビジョンを持ち合い、これまでの存続・成長をたたえる場です。みんなと一緒に作り上げてきた保育・療育の場として社会福祉法人桃郷は、これからも障害を持つ子どもたちのために、ひとつ一つの幸せを求め歩んでいきたいと思えます」との決意が述べられ、式典は終了しました。
なお、30周年記念事業の第2弾として、11月8日(土)に紀の川市粉河ふるさとセンターで、絵本作家の長谷川義史さんをお招きして公演会の開催を予定しています。皆様方のご来場をお待ちしています。

特別寄稿

桃郷がもう30周年 まだまだ30年

田中 秀樹 和歌山県高齢者生活協同組合理事長
社会福祉法人一麦会副理事長
社会福祉法人桃郷理事 ほか

社会福祉法人桃郷が30周年、無認可から30数年、無認可時代から歩んできた者として大変うれしく、その中で成長させてもらったことに感謝しています。

ふりかえてみると、ひまわり園はそもそも天から降ってきたものや誰かがつくってくれたものではありません。

当時まだ不十分だった「乳幼児健診の健診もれをなくしたい」「課題をもつ子どもやお母さんを励ましたい」。地域保健に力をつくす想いと姿が人を感動させ動かす力となりました。地道な船木さんらの保健婦の地域活動とその思いが、人を動かし賛同する人たちを増やし社会に呼びかけ続けたことが実現につながったのです。

保健婦として子どもたちやお母さんとの出会いで無念な思いをいくつも経験をしてきました。和歌山では乳幼児健診やその後フォローは十分なものではなく、相談は大阪や京都までも出かけていきました。

大津の乳幼児健診を学び、「大津方式」を和歌山に導入してきました。そして健診だけではなくその後の育ちの場をつくろうと、子どもたちやお母さんの思いや姿に突き動かされ、無認可のひまわり園を実現したのです。

実現したもののなんら運営の裏付けもなく、資金づくりに、認可施設建設へと、プレハブの厳しい環境ではありましたが、保護者や関係者の意気は高く、いろいろな経験と学びで今の基礎づくりになったと思います。

法人設立後30年、無認可時代を合わせると30数年で巣立った子どもたちはどれだけの人数になるでしょうか？無謀と思われたひまわり園の設立は、もしその時に足踏みをし立ち止まっていたらと思うと、和歌山における障害児保育運動は大きく遅れたものとなっていたことでしょう。その時決断した勇気ある人たちやその姿がはっきりしたものでない時に理解し支え続けた多くの人たちに感謝しきれない気持ちでいっぱいです。

和歌山で生まれた子どもは和歌山で育て上げたい、地域の宝として守りたい

もちろん子どもの成長はとどまっているものではなく、学校にすすめば、大人になればいろいろなことに直面します。

この先、運営の中心は今の若い人たちに継承されていくこととなります。30数年の果たしてきた役割とその思いを継いでいくことは大変な努力が必要です。

子どもたちを取り巻く制度や環境は大きく変化しましたが、それが将来を約束したものになってきているのでしょうか？無認可時代よりましになってきたのではダメなのです。

保育園や幼稚園の利用料が無償化されたとき、ひまわり園やこじか園は福祉制度であるから対象外といわれました。しかし、ひまわり園やこじか園のお母さんたちは「子どもたちの成長を支える制度は平等であってほしい」と国に対して署名活動を始めました。保護者はもちろん卒園児の保護者、多くの団体や人に呼びかけました。卒園児の保護者は自分たちの子どもに直接利益にならないにも関わらず、わがことのように活動しました。将来にわたって子どもたちを支える制度の充実、これから先のわが子を支える制度の充実につながることを、ひまわり園やこじか園での親の会活動で学びあったのではないかと思います。

短期間に集まった署名は8万人をはるかにこえました。保護者の代表が直接国へ届け願いは実現しました。「願いは実現できる」という経験は「財産」になりました。

子どもたちを見守っていくには、ひまわり園などだけでは限界があります。乳幼児期から学童期、青年期、成人期、高齢期までのつながりを考える必要があります。そのためには多くの人と手をつないでいくことが大切です。また乳幼児期での育ちを支えるひまわり園は、子どもたちの将来を見すえて目の前の子どもたちとのかわりをもつ必要があります。そのことは学童期、青年期と続く成長の過程での支援策にも関心をもち続ける必要があります。

私たちのめざす方向は日本国憲法や障害者権利条約等の法律やSDGsなどの行動指針に示されています。障害者権利条約では「他の人たちとの平等を基礎に社会に完全かつ効果的に参加する」と明記されています。それを実現するための私たちの学びと努力が続けられなければなりません。

社会福祉法人桃郷の30年は歴史の一部にすぎません。過去の優れた実践や運動によって今日を迎え、さらに発展させていくことが私たち関係者の役割だと考えます。

ごあいさつ



5月8日から新型コロナウイルス感染症が2類相当とされていたものが、5類感染症になりました。この3年間、子どもの安全を第一に考え、入園式、運動会、発表会、そして卒園式など全ての行事について保護者の皆さんにご参加を制限させていただき、誠に心苦しい思いでした。5類感染症になっても無制限に行事等を行うわけにはいきませんが、感染対策を十分にとり保護者、ご家族、地域の皆様にもご参加していただき、子どもたちの成長を見ていただければと思います。

6月2日の大雨により被災された皆様方には謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご復興を祈念致します。桃郷におきましては、子どもたちは全員無事帰宅していただくことができましたが、職員1名が帰宅途中、道路の陥没に車ごと転落し負傷しました。桃郷の施設におきましては、過去2度の床上浸水にあったひまわり園も、今回は幸いにも倉庫の一部が浸水しただけで大きな被害はでませんでした。そのような中、法人設立30周年式典は、予定していました会場が避難所となったため、会場を法人事務局とひまわり園に変更し、ささやかながらも執り行うことができました。

また、本年度は、監事、理事の改選もあり、理事の藪本弘子氏が今期をもって勇退されることになりました。藪本氏は、2007年から評議員として、2017年からは理事として当法人の発展に尽くしていただきました。藪本理事に代わり、つぼみ園園長の沖殿佳子氏が新たに理事に選任され、施設長と理事との兼務となりますが頑張っていていただきたいと思っております。

なお、私事ではございますが、引き続き理事長を引き受けることになりました。法人が設立されて30年、初心を忘れず桃郷の理念でもある、すべての子どもたちが平等な権利を享受し、地域社会に参加できることを目指し、皆様から信頼され必要とされる法人づくりを行ってまいります。いつも応援してくださっている皆様方からのご助力に感謝を申し上げますとともに、これからも変わらぬご理解、ご協力、ご支援を心からお願い申し上げます。

社会福祉法人 桃郷
理事長 船木 孝明

ご寄付等お礼

皆様方のご寄付、ご寄贈ありがとうございました。ご寄附等（順不同）

- 和遊協社会福祉事業協力会様（アンフほか）
- 社会福祉法人一麦会様
- 社会福祉法人一麦会こじか園様
- 社会福祉法人一麦会第2こじか園様
- 社会福祉法人いなほ福祉会様
- 社会福祉法人きのかわ福祉会様
- 社会福祉法人桜樹様
- 野田 ちよみ様
- 重宝 敏子様
- 中西 靖治様
- 山本 志保美様
- 一冊堂出版 坂本 卓也様
- 吉田 靖子様
- 井沼 武彦様 野菜ほか
- 津田美代子様 野菜ほか
- 紀州食品株式会社様（みかんジュースカープス様）
- 法人役員一同

法人役員

法人役員は次の方々です。（敬称略）

◎評議員

- 峰田 朋子 中岡憲治
- 中村 博行 山名和章
- 中浦 秀行 家原みや子
- 岩原 紀子

◎理事

- 船木 孝明 田中秀樹
- 藤本 綾子 船木栄子
- 沖殿 佳子 山本翔太

◎監事

- 千田 弘 山名純一

第三者委員

- 苦情処理第三者委員は次の方々です。（敬称略）
- 松山 義弘 藤範みつ
 - 千田 弘



桃郷の理念



- ① すべての子どもたちが平等な権利を享受し、地域社会に参加できることを目指します。
- ② 保護者、家族、地域と共に学びあい、共に育ちあうことを目指します。
- ③ ひとり一人の子どもの発達を理解し、生活を通して豊かな人生を歩む基礎づくりを目指します。
- ④ 地域福祉の担い手として、地域ニーズに応える取り組みを実践します。
- ⑤ 保健、福祉、医療、教育、地域の皆様と手を取り合い、子どもを支える地域づくりを目指します。

理事就任のご挨拶

つぼみ園園長 沖殿 佳子

このたびは法人理事を務めることになりました。

理事会は、社会福祉法人における最高経営会議であることから、組織全体に対して、それぞれの任務を遂行させなければならぬ役目があると思えます。

理事の一人として、微力ながら法人の運営に尽力させていただきます。皆様のお役に立てるよう取り組んでまいりますので、よろしくお願ひします。

新規採用職員研修

～これからの桃郷～

本年度3名の保育士を採用しましたが、その職員に5月31日(水)に初めての研修を実施しました。

桃郷の各事業所を見学した後、フォローアップ研修を行い、桃郷で働きたい2ヶ月、「子どもたちと触れ合うことが楽しい」という感想がある中で、職場で同世代の職員がいないので相談しづらいなどの悩みもありました。また、若手職員が集まった座談会を開催してほしいとの意見もあり、職場は違っても若手職員同士がお互いに何でも話し合えるような機会も設けていく必要があると考えます。

その後、定款や就業規則の説明、ま

た、主任保育士による桃郷の療育について研修を行いました。新規採用職員には、これからの桃郷の療育を担う保育士に育って欲しいと思っています。

(法人事務局長 田村 均)

メンタルヘルスマネジメント資格を取得

私は昨年10月に法人の自己研修支援制度の助成を受け「メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種・Ⅱ種」を取得しました。この資格を取得したいと考えたのは、近年職場でのストレス・精神疾患が大きな社会問題となっているということ。少なくとも、職員全員が健康で療育を提供できる法人にしたいという思いからです。

今回の広報誌に何を書こうか…。と考えたときに私が学んだことの中から次の3点だけお伝えしたいと思います。

- ① 精神疾患は珍しくなくなっていること。桃郷と同規模の会社で精神疾患により休んだ人がいる平均は約38%で、一生のうちに「うつ病」になる可能性は15%程度と言われています。昔は精神疾患なんてなかったという方もいらっしゃるかもしれませんが、医学の進歩で治療できる病気になる病院に行き治療するようになったことが大きい要因ではないかと思えます。
- ② 職場のストレスは「人間関係」だけではないこと。

職場でのストレスと聞くと人間関係が思いつくことが多いかなと思

ます。厚生労働省の調査では強くストレスを感じるのは「仕事の質・量」が最も多くなっています。メンタルヘルスの観点からも意外と研修等能力開発も重要です。

③ でも、やっぱり「人間関係」も大事な事。悩みを聞いてもらったり、認めてもらった時には嬉しかったりストレスが和らぐこともあると思います。そして万が一、精神疾患になったときには周りの人が気づくことが多いです。いつもと様子違うな。最近暗い表情が多いな等周りの人が気づいて早期に対応することが大事になっています。

社会福祉法人桃郷 30周年記念事業 公演会

絵本作家 長谷川義史先生 絵本ライブ

※下記のとおり開催を予定しています。

日時：2023年11月4日(土) 開場 12:30 開演 13:00 ※終演は14:30を予定しています。

場所：粉河ふるさとセンター大ホール

対象：保護者の皆様ほか 参加費：無料 定員：250名

♡お問い合わせ先♡ 法人事務局：0736-66-8851

第19回桃郷まつり 開催予定

日時：2023年9月9日(土) 16:00~19:00 (雨天中止・順延はありません)

場所：那賀スポーツレクリエーションセンター 多目的広場

是非ご参加ください!



桃郷においては、各職場の職員が一つのチームとして子どもたちの保育に取り組んでいます。より良い人間関係の構築は、単にメンタルヘルスだけではなく、保育について議論を交わし、子どもたちの未来について語り合うことが、きつと普段の保育にもいい影響を与えてくれるものと思います。

今後も引き続き学習を続け、万が一職員が精神疾患にかかってしまったとき、早期発見に努め職員本人と医師・カウンセラー・外部機関などと連携して職場復帰・社会復帰できるように支援を目指し取り組んでいきたいと思ひます。

(法人事務局 小谷祐一郎)

発達講座⑧

発達をみつめて

つくしんぼ園

発達相談員 山本 翔太

前回は、4歳から5歳頃にかけて「思考をめぐらせる力」を広げてくることが語られました。そのような力によって、「スノトキハ」、「シタラ…ニナル」と物事を判断することが可能になります。また、自制心の形成によって、心の中で自分自身を励ますようになり、困難な事に直面した時にも、揺れる気持ちに自ら折り合いをつけようとするようになります。以前、ある保育園に見学へ行かせていただいた時、5歳児クラスであつまりの場面で、担任の先生が翌週予定されている遠足についてお話しをされていました。行く場所（公園）を伝えた上で現地でもんななどどのようなことをするか、そのためには何を準備するのかを考えてほしいと、子どもたちに提起されました。みんなそれぞれの考えを発言していく中で、自分の発言を妨げられたと怒り出す子がいたり、だんだんと意見が対立してしまったりと、様々な思いが錯綜していました。もちろん5歳児さんと言えど、その

よつないごごを子ども同士だけで解決することは難しいため、所々で先生が丁寧に戻ってみたり、ある子が言いたかったけれど伝わりづらかったことを代弁するなどの関わりをされ、最終的にはクラスみんなの意見が一つにまとまっていきました。この場面で、「思考をめぐらせる力」をつけてきた子どもたちは、その力を他者との関係の中で発揮し、たとえ自分の思い

が通らない時も、折り合いをつけつつ、思いをめぐらせているのだからなと感じました。また、自分の力だけでなく、おとなの支えや仲間の声を心に受け止めるような経験をくぐる中で、子どもたちは5歳後半頃になつてくると物事を多面的にとらえる視野を膨らませていきます。それによって、これまでは「好き嫌い」、「良い悪い」など、二分的に物事をとらえていたことが、「ぶつう」や「どちらともいえない」など、「間」の世界をとらえるようになつていきます。価値的な認識だけでなく、空間的認識では前・後ろ、そして真ん中、時間的認識では昨日・今日、そして明日などがわかるようになっていきます。とくに、「間」の世界の理解が広がることで、物事がだんだん変化していく事に気づいていくようになります。すると、生活面では自分で見通しを持つ幅が広がり、予定が変更になつた時にも柔軟に対応するようになります。また、現在の自分と小さい頃の自分を比べて変化したところをとらえたり、おとなになつたらなりたいたいもの、そのために今の自分はどうすべきかを考えてみるなど、自分自身を時間の流れの中で把握しようとするまなざしが広がります。いわば「自分自身の歴史」に気づき始める時期とも言えます。だからこそ、楽しかった経験を通してプラスのイメージを積み重ねること、また、時にうまくいかないことがあつても、おとなや仲間の力を借りて頑張れたこと、そしてそれらをおとなや仲間と共に振り返ることを通して、「だんだんと変化してきた自分」を手ごたえにしていることなどを大切にしたいところです。

※第5号からはじまった乳幼児期の発達の道すじは今回で終了です。

社会福祉法人 桃郷

■ 児童発達支援センター

ひまわり園	〒649-6112	和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3	☎0736-66-0995	☎0736-66-1905
つくしんぼ園	〒649-7207	和歌山県橋本市高野口町大野74番地1	☎0736-42-0100	☎0736-43-0200
つばみ園	〒649-6112	和歌山県紀の川市桃山町調月736番地1	☎0736-66-0013	☎0736-66-0023

■ 児童発達支援事業

木の実教室	〒649-6236	和歌山県岩出市首屋370番地17	☎0736-62-0815	☎0736-62-0856
くるみ教室	〒649-6246	和歌山県岩出市吉田228番地1	☎0736-67-7788	☎0736-67-7799
くまの子教室	〒649-7113	和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺146番地2	☎090-3673-9958	

■ 多機能型事業所

あすなろつばさ	〒649-7112	和歌山県伊都郡かつらぎ町中飯降1062番地1	☎0736-23-2900	☎0736-23-2929
---------	-----------	------------------------	---------------	---------------

■ 放課後等デイサービス

青空	〒649-6427	和歌山県紀の川市西井阪224番地1	☎0736-77-0070	☎0736-77-0050
粉河青空	〒649-6531	和歌山県紀の川市粉河46番地	☎090-6969-4195	
青空つばさ	〒649-7113	和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺146番地1	☎0736-22-5551	☎0736-22-5561

■ 相談支援事業所

桃郷障害児者相談支援センター				
	〒649-6222	和歌山県岩出市岡田649番地2	☎0736-67-8891	☎0736-67-8892
つくしんぼ相談支援室（つくしんぼ園に併設）				
	〒649-7207	和歌山県橋本市高野口町大野74番地1	☎0736-42-0100	☎0736-43-0200

■ 法人本部

事務局	〒649-6112	和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3	☎0736-66-8851	☎0736-67-8851
-----	-----------	--------------------	---------------	---------------

新規採用職員の自己紹介

ひらみ みゆう
平見 美憂

【所属】 児童発達支援センター ひまわり園児童指導員
【趣味・好きなこと】 ひまわり園に配属された平見美憂です。「子どもと本気で関わる！」ことをモットーに頑張ります。趣味は読書にコラージュに…最近では読書記録作りハマっています。

あべ わかな
阿部 若菜

【所属】 児童発達支援センター つぼみ園保育士
【趣味・好きなこと】 ショッピング
【意気込み・抱負】 子どもたちとたくさん一緒に遊んで、関わっていくなかで色々なことを吸収し、子どもたちと一緒に成長していきたいです。

なかがわ りか
中川 梨華

【所属】 児童発達支援センター つくしんぼ園保育士
【意気込み・抱負】 ずっと夢だった保育士になることができました。2年間短期大学で学んできたことを活かせるようにしたいと思います。先輩方の力を貸して頂きながら頑張りたいと思います。

からさき じゅんこ
唐崎 順子

【所属】 児童発達支援事業 くるみ教室保育士
【意気込み・抱負】 諸先生方の子ども達を丸ごと包み込む優しさや保育の引き出しの多さに学ぶことがたくさんあり、これからも真摯に子ども達と向き合っていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

さかぐち ゆきのぶ
阪口 幸延

【所属】 児童発達支援センター つぼみ園事務員
【趣味・好きなこと】 バイクに乗ることや、触ることが好きです。
【意気込み・抱負】 子どもたちや職員の方々のお役に立てるようがんばります。

季節も夏に入り、待ちに待った夏休みがやってきました。3月にひまわり園・つくしんぼ園・つぼみ園を巣立った子どもたちも4月からは小学生になり、粉河青空・あすなろつばさで元気に過ごしています。

編集後記

粉河まつりが3年ぶりに開催されることになり、まつりで使われる太鼓やカネに触れさせてもらう機会が出来ました。子どもたちは素晴らしい体験が出来ました。事業所の移転による新しい環境にも慣れ、地域の人々との関わりも増えました。電車遠足やドライブ散歩にプール遊びなど、コロナ禍で出来なかった活動をどんどん増やし、思い出っばい夏の思い出に出来ればと思ひています。

ひまわり園よりも、歴史の浅い学童ですが、保護者の活動から始まった「あおぞら」です。放課後の時間に友だちと楽しく過ごせる場所であるよう活動していきたいと思ひます。
(鈴木)

管理者からの施設紹介⑧

児童発達支援センター「つくしんぼ園」 園長 植田 京子

桃郷30周年の歴史の中、つくしんぼ園の保育がはじまって16年が過ぎました。「あたり前に」「ふつうに!!」子どもの豊かな発達を支えるためにと、保護者と子どもに関わる者達が願って始まった保育です。つくしんぼ園の園庭は子ども達の声であふれています。自慢の園庭は心を動かされる「しかけ」がいっぱいです。

園庭の自由遊びで、毎日ずっとずっとブランコをこいでいた子が、楽しそうな乗り物に手を出しました。ブランコからお友達の姿を見ていたのでしょうか。初めての乗り物はやっぱりぎこちない、選んだのは押ししてもらえる三輪車です。大好きな保育士に押しもらっています。遠くから見ても少し緊張が伝わって来ます。その姿はなんとも可愛く、満足気で素敵なお笑顔の場面に感動です。次は何にチャレンジするのでしょうか。とても楽しみです。新入園児10名はスムーズに園生活に慣れました。自然いっぱいの園庭では、木登りを楽しめます。高くまで登れる格好いいお友達を追いかけて登ろうとしても怖くてうまくいかない、でもいつかそこまで登れるようになりたいと頑張る姿の子がいます。お花に水やりしながらてんとう虫を発見し、保育士に知らせ喜びを分け合う子、園児達が作った土山のアスレチックで丸太やタイヤ渡りでバランスを楽しむ子、ログハウスでほっこりまごどを楽しむ子達。飽きない自慢の園庭遊びです。お散歩に行くと、稲刈りのすんだ田んぼに入っているよと遊ばせていただきます。虫取り・葉っぱ集め、レンゲの冠、鳴る草笛を上手に吹くようになった子もいます。心温まるお心使いに感謝です。つくしっ子は、「心を動かされて遊ばずにいられない」、少しのしかけを自分なりに広げて楽しみ、毎日、身体をいっぱいに使って、自己主張し、お友達と喧嘩し、仲直りしては、また一緒に遊んでいます。今はまだ言葉にはならなくても、「ぼくも〜」「待って、待って」「やったあ!」と気持ちがいっぱい飛び交っています。いつの時も、「子どもが主人公」こども達の瞳は、キラキラと輝き、力強くなっていきます。

コロナで経験不足になってはならない。桃郷では、豊かな発達のために豊かな経験を工夫してきました。しかし、地域の方々と一緒に楽しむ行事が出来なかったのが残念でなりません。今年こそは、「つくしっ子」の“みんな違ってみんないい…”“自分こそが主人公!”キラキラしたつくしっ子の姿を地域の皆さんに見てもらいたい。そして、たくさん褒めてもらいたい! そんなわくわく感でいっぱいです。つくしんぼ園は、今年も子ども達、保護者の皆さん、地域の方々の笑顔があふれ、そして職員も笑顔一杯の園になりますように力を合わせて行きたいと願っています。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。